

教科 科目	音楽 I	単位数	2	対象学年・組	3 学年選択者
教科書 使用教材	高校生の音楽 1	教科担任			

1. 指導目標

高校3年生の音楽はおそらく生徒たちにとって人生最後の音楽の授業になるかもしれない。

このことをふまえて、これから社会に出て音楽が彼らの生活の彩りの一つになるよう、自分の音楽の裾野を広げ、音楽のさまざまな形に会わせたい。そのために、音楽を多方向からとらえ、チャレンジする機会を作る。

知識の羅列でなく、なぜそれを今取り上げるのかという1年間の教材の流れも大切に自然に多くを学んでいけるように図る。

2. 学習内容と学習上の留意点

学期	指導内容	具体的な指導目標	方法、評価上の留意点など	予定時数
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽のジャンルを確認 ●楽譜への抵抗をなくす ・楽典、読譜力、耳コピに チャレンジ ●BGMの効果を考える ●表現力をつける ●ギターにチャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ・偏ることなくさまざまな音楽に触れるために まず今の自分の状態を知る。 ・自分で音楽を楽しんでいくための基本的知識 を習得する。 ・聴く・歌うほかの音楽にも目を向ける ・声だけではない、表現力強化を図る。 ・ギターを「これから自分ひとりでも弾けそう だ」という生涯教育レベルに持っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確認したもの、勉強した結果 が自分でわかるような振り返り を毎時間行う ・視聴覚教材を使い、ワーク シートにて考察過程をみる。 ・視聴覚教材を使ってさまざま なアーティストや芸術の姿を鑑 賞しながら表現力の多様性に気 づかせ、自分の糧にする。 ・課題を設定し、クリアする過 程をみる。 ・本校独自の、効果的な教則本 を作成する。 	20
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴスペルにチャレンジ ●オペラを語る人になる ●ボーカルアンサンブル ●キーボードにチャレンジ ●ドラムにチャレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験してきた合唱のスタイルから一歩発展 し、音楽への思いをストレートに表現する歌唱 表現に親しむ。その発祥・歴史や歌唱スタイル を習得する。 ・日常ではなかなかふれることの少ないけれど よく耳にする言葉「オペラ」を音楽的・文芸的 に理解する。 ・デュエットそのほかの歌唱スタイルに親しむ ・生涯教育としても人気の高いこれらの楽器に 触れ、基本を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コール&レスポンスのスタイ ルでメインボーカル・バック コーラスをひとりひとり経験さ せる。 ・意外にオペラのなかのアリア が多く知られていることに気づ き、自らも原語でトライする。 ・オペラのストーリーを多く親 しむ。 ・基本から課題を設定する。 	24
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ●過去から未来につなぐ音楽史 ●演奏会 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな音楽体験のまとめとして、太古の 昔から現代のテクノポップやボーカロイドまで 1本につながっている過程を学ぶ。 ・1年間のまとめとして自分の実技課題を自由 に設定し、練習を重ね、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントで作った教材 をもとに流れをつかませる。 ・歌唱・ギター・ドラム・キー ボード（ピアノ）のなかから皆 の前でコンサートの形で自分の 音楽を表現する。 	12

配当時間は一応の目安であり行事等の関係で若干の増減あり。

3. 授業を受ける上での注意

- ・実技科目であるので、授業への積極的な姿勢、取り組み方が重要ポイント。
- ・コロナの状況を見つつ、歌唱指導の時期を考えたい。

4. 評価の観点・方法

- ・器楽については技術習得を実感するためにこまめに課題の到達度チェックを行う。
- ・表現力を重視した歌の実技テスト
- ・授業で用いるワークシートの内容
- ・毎回授業後に提出する振り返りカードで授業への取り組みを自己申告